



企業における適正利益と社会責任

黒田インターナショナル

黒田 毅

企業が先端効率性と生産性、コスト基準をクリアし、システム構築と市場への参加を世界において実現することは、その利益構築の健全化を与える。

これは正しい市場認識が、正しい市場アクセスを可能とし、これらマーケティングと市場参加における企業内におけるコンセンサスの構築は、企業の安定性を可能とする。

流通における IT 化とデータ管理はその効率的な製品の販売を与える。

これら新しい効率基準における企業転換は、高い利益性における利益の健全性を構築することができる。

これらは自社製品における技術とシステムにおけるコアコンピタンスの要求をその開発基準の転換と共に実現し、これら新しい市場基準における企業経営は、新しい自己基準を要求する。

また社会市民としての地域への参加は、その企業製品と社会市民としての協力参加を求められる。

これらは新しい企業環境とシステムにおける完全な企業転換を市場と時代において要求されるという現実なのであり、これらは企業内における新しい自社計画の作成を新規に要求される。

これら新しい企業意識の育成は、時代変化への対応を求められることにおいて正しいのである。

これらは企業システムが新しい効率基準において利益の安定化と健全化を可能とすることであり、これらは新しい企業基準と判断において実現できるものである。

これらは企業が IT システムにおける経営への移行を実現することを示唆するものであり、企業が自己システムの構築を行うことはその内容を最も吟味しなくてはならない。